

品種解説：「はえぬき」

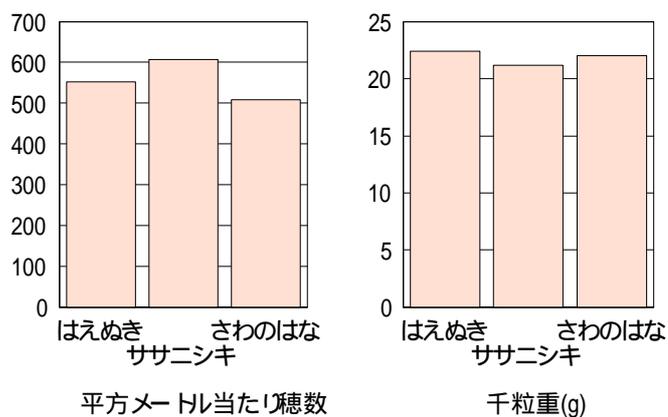
概要：本品種の障害型耐冷性は「ササニシキ」より明らかに強い“極強”である。名前の意味は、“米どころの山形県で生まれ育ったオリジナルの米、まさに生え抜きの米が大きく飛躍し続けること”を表現する。

1．来歴の概要

「庄内 29 号」を母とし、「秋田 31 号」(のちの「あきたこまち」)を父として、1982 年に山形県農業試験場庄内支場で人工交配された。1990 年に「山形 45 号」の系統名が付けられ、1992 年に「はえぬき」として登録された。

2．形態的特性

- ・ 稈 長：「ササニシキ」より短い。
- ・ 穂 長：「ササニシキ」よりやや短い。
- ・ 穂 数：「ササニシキ」より少ない、“短稈中間型”のうるち種である(下図参照)。
- ・ 粒 大：「ササニシキ」より大きく、粒厚は「ササニシキ」並みである。
- ・ 千粒重：「ササニシキ」より 1.0-1.5g 程度重い(下図参照)。



3．生態的特性

- ・ 出穂期：「ササニシキ」より 2 日遅い。育成地では“中晩生”である。
- ・ 収量性：「ササニシキ」並みかやや劣る。
- ・ 耐倒伏性：“強”
- ・ 葉いもち抵抗性：“中”
- ・ 穂いもち抵抗性：“中”
- ・ 耐冷性：“極強”
- ・ 穂発芽性：“中”

特 性	はえぬき	ササニシキ	さわのはな
耐冷性	極強	やや弱	中
耐倒伏性	強	弱	-
葉いもち抵抗性	中	弱	-
穂いもち抵抗性	中	弱	-
穂発芽性	中	やや易	難

4．品質・食味特性

- ・腹白の発生は極少ない。
- ・玄米の外観品質は「ササニシキ」より良質で、“上の上”である。
- ・食味は「ササニシキ」より明らかに優り、“上の上”である。

5．適地等

- ・中晩生、耐冷、良質、極良食味品種として、県平坦部を対象に適する。

6．基本指標

- ・整粒歩合 80%を目標とし、精米の粗タンパク質含有率が低い良食味米が安定して確保できる平方メートル当たり籾数は 3.2 万粒程度で、このとき収量は 580kg/10a(粒厚 1.9mm 以上玄米) 程度である。
- ・3.2 万粒を超えると整粒歩合が低下し、食味を低下させる粗タンパク質含有率が高まる。また、精玄米粒数歩合(総籾数に対する粒厚 1.9mm 以上玄米の割合)、千粒重が低下するため、収量はほぼ横ばいとなる。
- ・1 穂籾数は、内陸が 65 粒、庄内で 58 粒程度であり、目標とする平方メートル当たり穂数は、内陸で 480 本、庄内で 530 本程度である。

< 参考資料 >

- ・平成 11 年 3 月発行、山形県「稲作指針」など。